

河原院左大臣 源融公

八月二十五日は当宮をご創建されました、源融(みなもとのおとる)公が寛平七年(八九五)に薨去(お亡くなり)された日です。

源融公は、当宮の主祭神 嵯峨天皇さまの皇子として誕生され、後に臣籍降下で源姓を賜り(嵯峨源氏)皇族を離れられました。

平安時代初期の貴公子として名を馳せ、自邸の六条河原院から河原院左大臣とも呼ばれ、その名で百人一首にも「陸奥のしのぶもぢずり 誰ゆえに 乱れそめにし 我ならなくに」と和歌が採録されています。この六条河原院は平安時代全時代を通して最大級の豪邸で、源氏物語の六条院はこの河原院がそのままモデルといわれており、そこから光源氏のモデルも源融公が最有力視されています。

この源融公が御父君である嵯峨天皇さまの御追悼の為に、嵯峨天皇さまゆかりの当地に御霊をお祀りする神社を建立したのが当宮のはじまりです。ですので当宮は光源氏が創建した神社ともいえるのかもしれませんが。

源融公の子孫はのちに渡辺党とよばれ水運を生業とし、淀川流域を中心に瀬戸内海に大きな影響力をもち、全国の渡辺家はこの源融公の子孫です。さらに佐賀の松浦氏、福岡の蒲池氏も子孫といわれ、歌手の松田聖子さんもこの源融公の子孫とされています。

こうした源融公の逸話はたくさんありますが、中でも寛平元年八月十日に、暑さと様々な国政の悩みから心身共に疲弊していた宇多天皇さまに「露蜂」という妙薬を服用するよう進言し、これが効果てきめんで、元氣になられたという話が伝わっており、これはローヤルゼリーの事と考えられています。

源融公はまだ奈良時代の気風の残る時代に、京都らしい貴族像を確立された方ともいえ、まさに平安時代の光の君ともいえる方でした。そんな平安時代でもローヤルゼリーが必要なほど八月の暑さは厳しきもの。どうぞ現代の皆さまもご自愛下さい。

氏地案内「鶴野町」

当宮は氏地として旧北野村である、北野連合振興町会、梅田東連合振興町会、万歳町、西天満六丁目、中崎西二丁目一部、曾根崎一丁目一部の氏神さまとして鎮座いたしております。

氏地案内の七回目は鶴野町についてです。町名の由来は、茶屋町にあった庭に鶴を放し飼いにしていたお茶屋「鶴乃茶屋」に由来するとされています。

実は鶴野町そのものは元々「南浜村」に属し、当宮の氏地「北野村」には含まれていませんでしたが、明治以降、梅田が都市化するのに伴い道路が整備され、南浜村も道路で南北に分断された事などにより、当時の町の人々らが話し合い、行政区画の都合もあり、大正時代頃には鶴野の名を冠して、当宮の氏地に加わっていたようです。(このあたりの詳しい史料は戦災で焼失)

この町には家康ゆかりの権現松や、昭和五十一年まで浜村鬼子母神と呼ばれた慶住院というお寺がありました。新御堂筋の敷設や、北野今市線の道路計画で移転し、その後、マンションが建てられ、梅田で最大の居住人口密集地となりました。近年では都心回帰で益々人口が増え、繁華街の梅田では珍しく、地元の子供たちの遊ぶ声が聞こえる町となっています。

今月の暦

【節気】 立秋(八日)：暦の上では秋となる。この日から残暑処暑(廿三日)：暑きの峠を過ぎる頃。台風特異日

【雑節】 お盆(十三〜十六日)：先祖供養。日本独特のもの

【大安】 八月五日、十一日、十七日、廿三日、廿九日

【祝日】 山の日(十一日) ※翌十二日は振替休日

【忌日】 広島原爆忌(六日)、長崎原爆忌(九日)、終戦の日(十五日)

【旬】 【野菜】 シシトウ、ナス、トウモロコシ、冬瓜、南瓜

【果物】 ブドウ、イチジク、スイカ、メロンなど
【魚介類】 ハモ、アユ、スルメイカ、キハダマグロ、アワビ
【その他】 青葉狩り(登山)、海水浴、ひまわり、朝顔が見頃

※例年八月四日は京都の北野天満宮の例祭日で、当宮では遙拝式の日(神事のみ)でしたが、北野天満宮では本年から例祭日を元来の旧暦の八月にする為、月遅れとなった事から本年は九月斎行です。

網敷天神社SNS、地図サイト



編著 網敷天神社

編集 網敷天神社

白江 秀知

